



平成 27 年 3 月 10 日

各 位

会 社 名 日本ビューホテル株式会社
住 所 東京都台東区西浅草三丁目 17 番 1 号
代 表 者 名 代表取締役社長 石井 一男
(コード番号：6097 東証第二部)
問い合わせ先 常務取締役経営企画部長 櫻井 健博
TEL. 03-5828-4429

中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、2016年4月期から2018年4月までの3ヵ年の中期経営計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 中期経営計画策定について

当社は、2020年度(2021年4月期)までに連結売上高280億円を達成することを長期目標とし、これに向けた2016年4月期からの3ヵ年を事業基盤の拡大による新たな成長ステージと位置付け、中期経営計画「VIEW HOTELS V-STAGE 280」を策定いたしました。

2. 業績目標(連結)

単位：百万円

	2015年 4月期予想	2016年 4月期計画	2017年 4月期計画	2018年 4月期計画
売 上 高	18,367	19,090	20,090	20,660
営 業 利 益	824	960	1,150	1,420
経 常 利 益	986	830	1,080	1,340
営 業 利 益 率	4.5%	5.0%	5.7%	6.9%

詳細は別添資料をご参照ください。

以上

日本ビューホテルグループ

2016年4月期～2018年4月期

中期経営計画

VIEW HOTELS V-STAGE 280

 日本ビューホテル株式会社

(証券コード: 6097)

1	V-STAGE 280	2
2	外部環境認識と取り組むべき課題	4
3	当社の状況	6
4	中期経営計画の概要	10
5	ホテル事業	15
6	施設運営事業	21
7	遊園地事業	24
8	新規事業開発	27
9	株主還元	29
10	補足資料	32

1	V-STAGE 280
2	外部環境認識と取り組むべき課題
3	当社の状況
4	中期経営計画の概要
5	ホテル事業
6	施設運営事業
7	遊園地事業
8	新規事業開発
9	株主還元
10	補足資料

ビューホテルのコンセプト(強み)

ホスピタリティ あたたかい“おもてなし”

- 『一流のサービス』よりも、『親しみのある、あたたかい“おもてなし”』を提供。
- 「マインドの育成」を中心とした教育研修を実施し、モチベーションの高い社員によるサービス提供の土台を醸成。

地域密着 地域を愛し、地域に愛されるホテル

- 各ホテルとも、地域一番手として開業。高いブランド力・知名度を有し、多くのリピーターからの支持を獲得。
- 地域社会に対する特別サービスの提供等、地域社会と積極的に交流を深め、高い信頼関係を構築。

ビュー(景色) 眺めサービス

- 浅草ビューホテル・伊良湖ビューホテルを代表として、施設からのビュー(景色)を重要視。
- 施設からの眺めを一つのサービスとして提供。

2020 ビューホテルグループのあるべき姿

- 日本の観光産業における大きな役割の担い手
- 国内外の顧客に向けた価値あるサービスの創造と提供
- 成長性の拡大とステークホルダーからの信頼

この中期経営計画の位置付け

上記のコンセプトと経営ビジョンに基づき、2020年度までに連結売上高280億円を達成するために、これからの3ヶ年を新たな成長ステージとする経営計画

VIEW HOTELS V-STAGE 280

1	V-STAGE 280
2	外部環境認識と取り組むべき課題
3	当社の状況
4	中期経営計画の概要
5	ホテル事業
6	施設運営事業
7	遊園地事業
8	新規事業開発
9	株主還元
10	補足資料

ホテル業界を取り巻く環境・動向

- 訪日外国人は2014年に1,340万人を突破、政府目標は2030年(平成42年)までに3,000万人を目指しており、今後も増加が期待される(カジノ構想への期待もあり)。
- 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、都心を中心に新規ホテルの開業が予定されているものの、需要に供給が追いつかない状況が予想される。
- 国民のレジャー・余暇生活への重点意識は高く、宿泊マーケットは拡大基調を継続。円安等の要因と思われる日本人の海外旅行から国内旅行へのシフトの動きも見られる。
- 消費増税の影響からの緩やかな回復が見込まれる。
- 人口動態ではシニア人口が増加し、地域的な側面では都市部への集中化が進む。

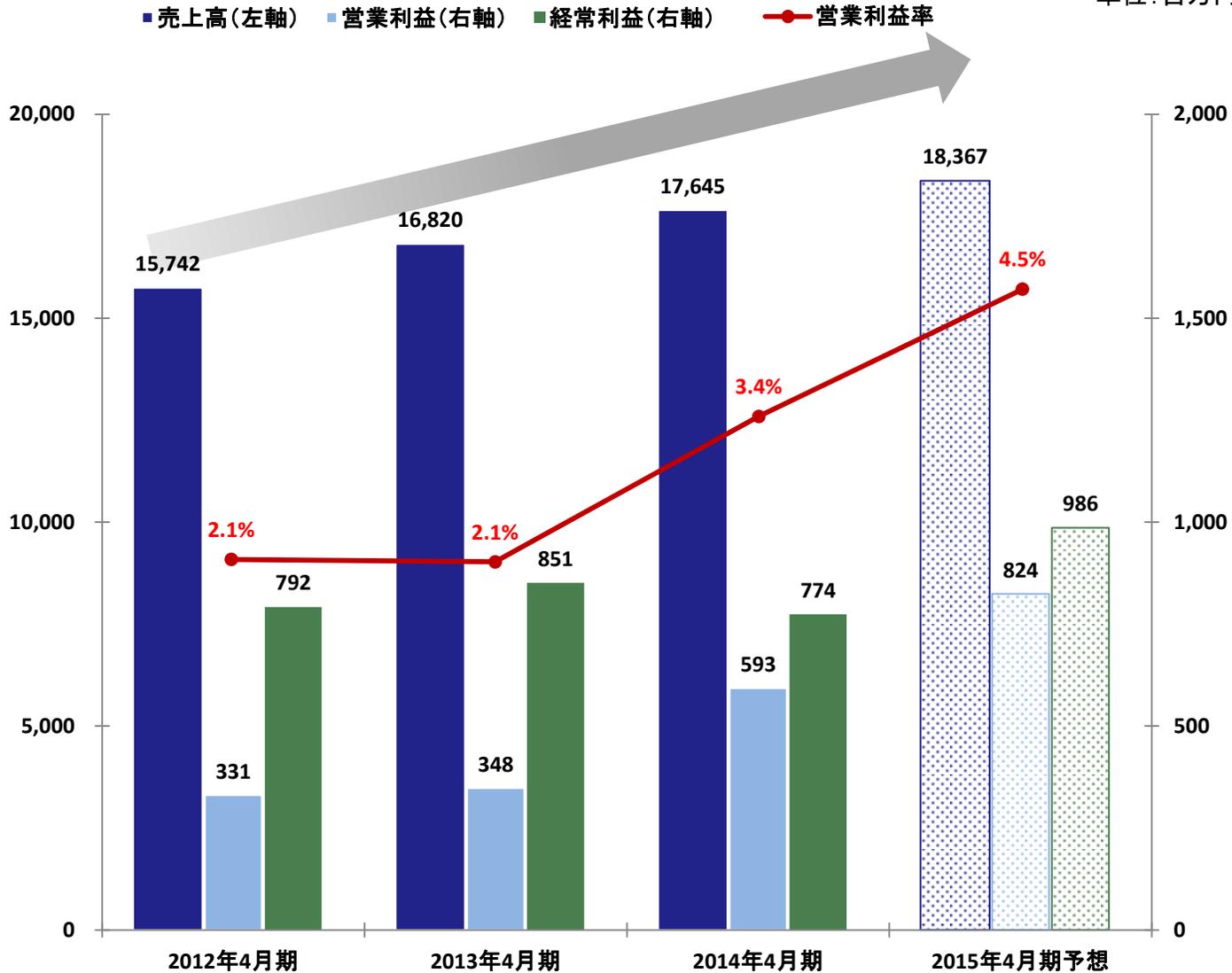
取り組むべき課題

- 2020年に向けて更に厳しくなる首都圏での競争環境への対応。
- アジアを中心とする市場拡大、訪日外国人増加への対応。
- 高齢化の進展や社会構造の変化による消費行動の変化・多様化への対応。

1	V-STAGE 280
2	外部環境認識と取り組むべき課題
3	当社の状況
4	中期経営計画の概要
5	ホテル事業
6	施設運営事業
7	遊園地事業
8	新規事業開発
9	株主還元
10	補足資料

連結業績の推移

単位：百万円

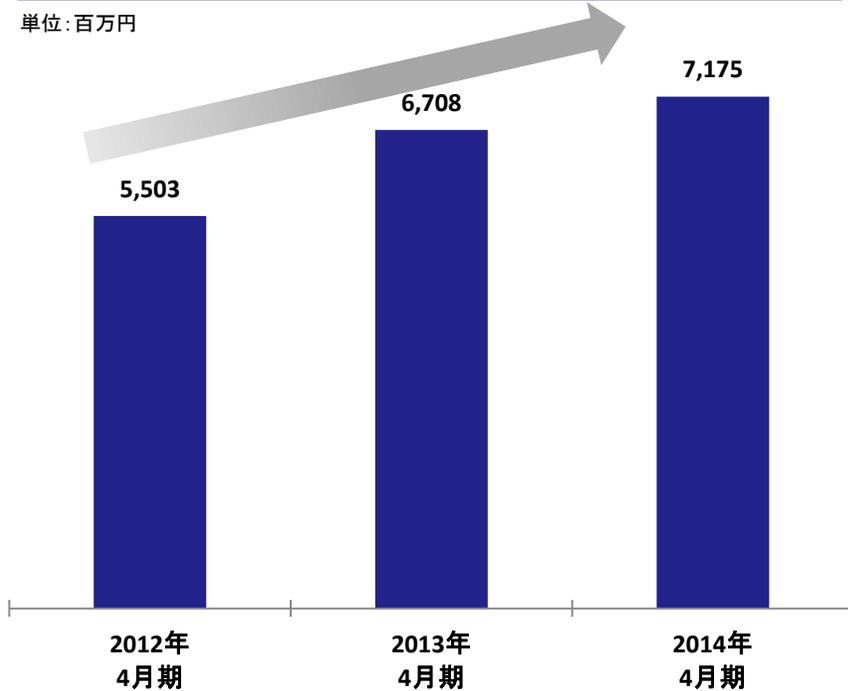


- 売上および利益とも上昇基調を継続
- 訪日外国人旅行者の増加や浅草ビューホテルを中心とした既存事業所での改装が業績の伸長に大きく寄与
- 営業利益率は2014年4月期3.4%から2015年4月期は4.5%へ上昇する見通し

全部門の売上が増加基調で推移

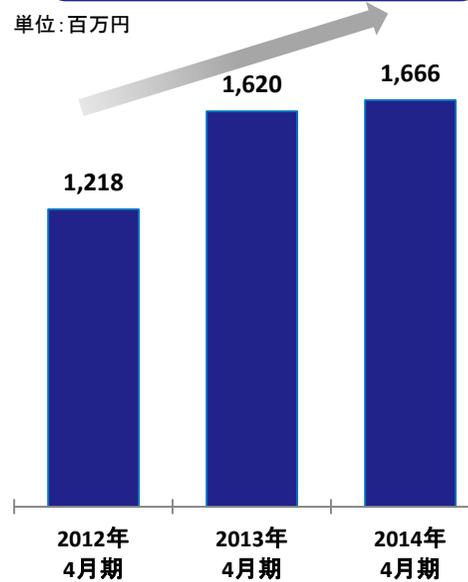
合計売上高

単位: 百万円

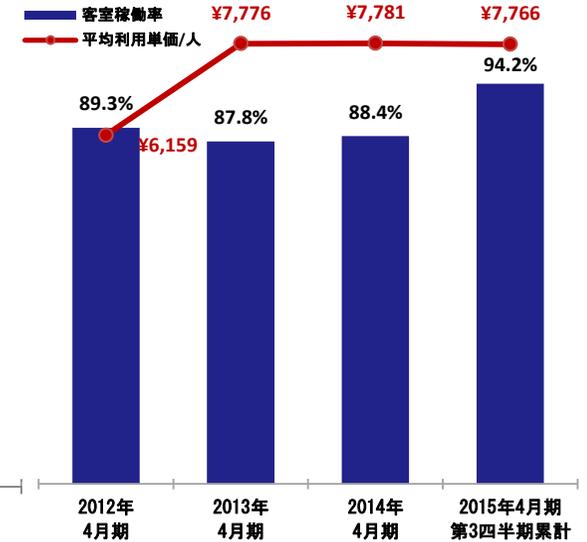


客室売上高

単位: 百万円

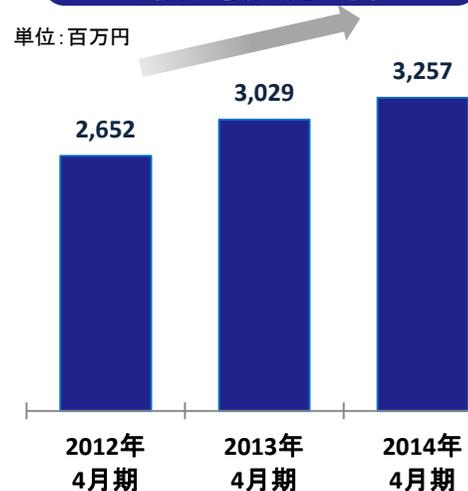


客室稼働率・利用単価



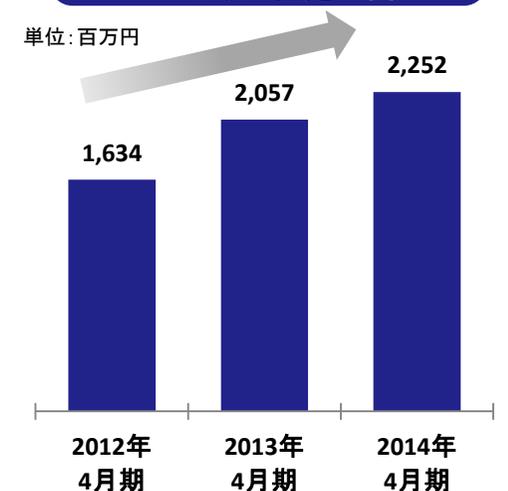
婚礼・宴会売上高

単位: 百万円



レストラン他売上高

単位: 百万円



- 2014年4月期までの客室改装による一部クローズから、2015年4月期は全室フル稼働となり、稼働率が上昇。
- 宿泊での訪日外国人旅行者の比率は、2014年4月期2%から2015年4月期1月迄で7%(1月は22%)。通期では10%を超える見通し。販売単価をコントロールしながら、個人客を中心に取込を増加。

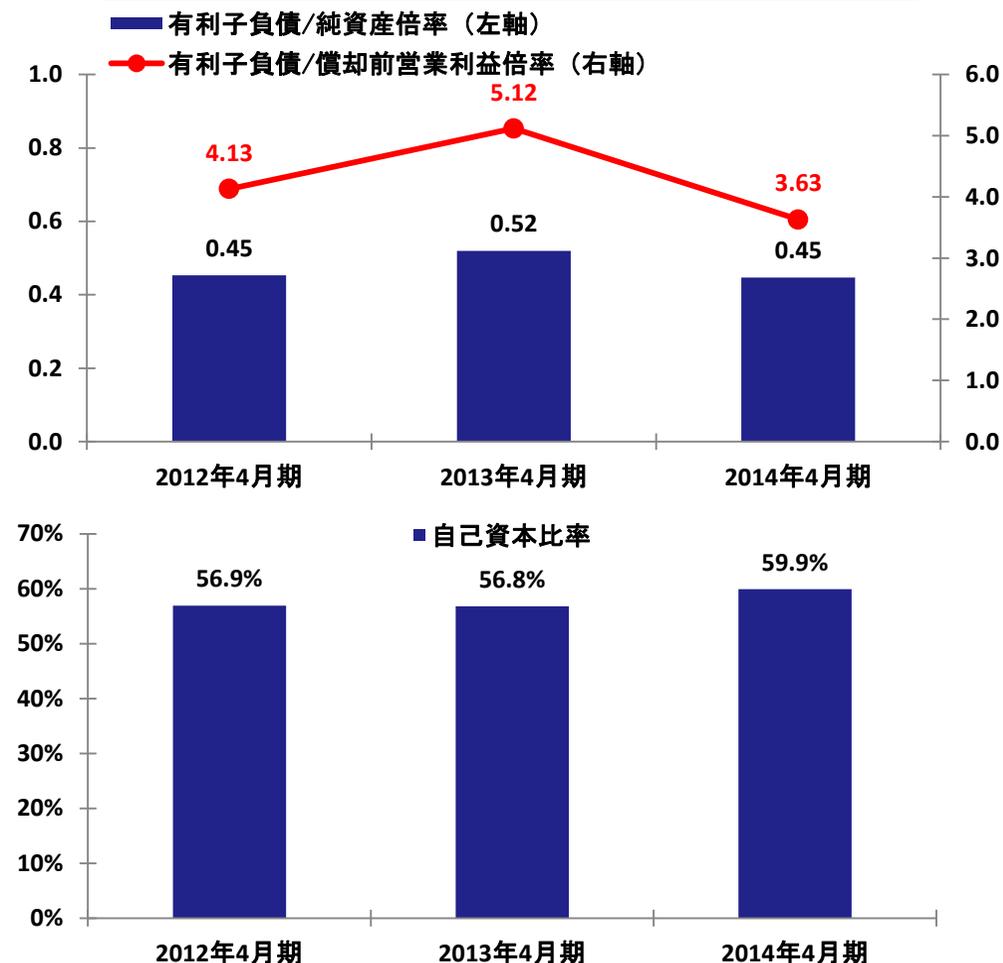
- 2014年4月期末時点で、資産合計219.5億円、現預金28.1億円、有利子負債59.4億円、純資産131.5億円
- 利益の蓄積に伴い、自己資本比率は2014年4月期で約60%まで上昇
- 有利子負債/純資産倍率は0.45倍、有利子負債/償却前営業利益倍率は3.6倍程度で、高い健全性を示す

→ 今後の設備投資戦略実施に向け盤石な財務基盤を構築

連結貸借対照表

単位: 百万円		2012年 4月期	2013年 4月期	2014年 4月期
流動資産	現金及び預金	4,267	3,344	2,809
	売掛金	727	722	666
	その他流動資産	715	760	640
流動資産合計		5,711	4,827	4,116
固定資産	有形固定資産	13,987	15,596	16,117
	無形固定資産	1,439	1,436	1,425
	投資その他の資産	372	408	293
	固定資産合計	15,799	17,440	17,836
資産合計		21,510	22,268	21,953
負債	うち有利子負債(割賦含む)	5,569	6,519	5,939
	流動負債	4,008	3,676	3,649
	固定負債	5,261	5,946	5,154
負債合計		9,270	9,622	8,804
純資産	資本金	2,579	2,579	2,579
	資本剰余金	1,500	1,499	1,499
	利益剰余金	8,161	8,565	8,984
	その他	0	1	85
純資産合計		12,240	12,645	13,148

財務指標



1	V-STAGE 280
2	外部環境認識と取り組むべき課題
3	当社の状況
4	中期経営計画の概要
5	ホテル事業
6	施設運営事業
7	遊園地事業
8	新規事業開発
9	株主還元
10	補足資料

“既存事業の持続的な成長”に“事業基盤の拡大”をプラスし成長を加速

事業基盤の拡大

…ホテル・旅館の展開
関連事業・周辺事業への進出

2016年4月期～2018年4月期

中期経営計画の基本方針

既存事業の業績向上

2013年4月期～2015年4月期

キャッシュフロー経営

2012年4月期以前

設備投資の抑制

- 民事再生手続を契機に、再生債務の返済を最優先とする守りの経営へ。10年以上に亘り、大規模な設備投資を抑制。

稼働率確保を最優先

- 成長より安定を優先し顧客数の維持を最優先したオペレーションを実施。
⇒顧客単価が下落

当社の本来の強みが更に強固に

- ハード面では大型設備投資抑制により競争力が低下していく中、サービス、料理に工夫を凝らし安定的な業績を記録。

攻めの経営への転換

- 2012年3月の再生債務完済を機に浅草ビューホテルを中心とした既存事業所への積極的な設備投資を再開。攻めの経営方針に転換。

売上、利益ともに上昇基調を継続

- 客室稼働率や宿泊単価の上昇などが売上および営業利益の増加に寄与。
⇒顧客単価が上昇

成長基盤の構築

- 2014年7月に東京証券取引所市場第二部に上場。財務基盤および浅草を柱とする収益源泉の確立により今後の成長への基盤を構築。

1.既存施設での継続的な設備投資

- 継続的な設備投資によるホテル(コア)事業の長期持続的な成長を目指す。

2.新規ホテル・旅館の展開

- ホテル事業では、M&A、賃貸借契約により西日本エリア、東京都内、県庁所在地、政令指定都市へ展開して行く。
- 施設運営事業では投資リスクを抑制したチェーン展開を行う。

3.新規事業の展開（事業領域拡大）

- 当社の強みである「食」を全面に出したブッフェレストラン、デリカの出店。
- 観光地における温浴施設の運営。

新中期経営計画

事業基盤の拡大

2020年への更なる成長

既存(コア)事業の持続的成長

新規事業展開による成長

当社の持つ強みの更なる強化

既存施設の継続的設備投資

新規ホテル・旅館の展開

新規事業展開 (事業領域拡大)

- 継続的な人材育成
- 「食」への取り組み

- 江戸情緒をテーマとした浅草ビューホテルロビー改装
- その他ホテルでの客室中心の改装
- 浅草ビューホテルでのデリカ事業開始
- 那須でのbuffetレストラン、温泉施設、マルシェ新設

- 東京都内、県庁所在地、政令指定都市への出店
- 西日本エリアへの進出
- 海外への進出(アジア)

- buffetレストラン出店
- 温泉施設の運営
- デリカの店舗展開



江戸情緒をテーマとした「浅草ビューホテル」のロビー改装(イメージ)



両国ビューホテル(仮称)



秋田ビューホテル「空楼」



外部環境

新規事業展開による事業領域の拡大を進める過程においても
既存事業の増収・増益基調を堅持し、収益性と経営効率を向上

2018年4月期 連結売上高

200億円以上

2018年4月期 連結営業利益

14億円以上

2018年4月期 連結営業利益率

6%以上

2018年4月期 連結経常利益ROE

8%以上

4. 中期経営計画の概要 ④連結業績目標

単位: 百万円

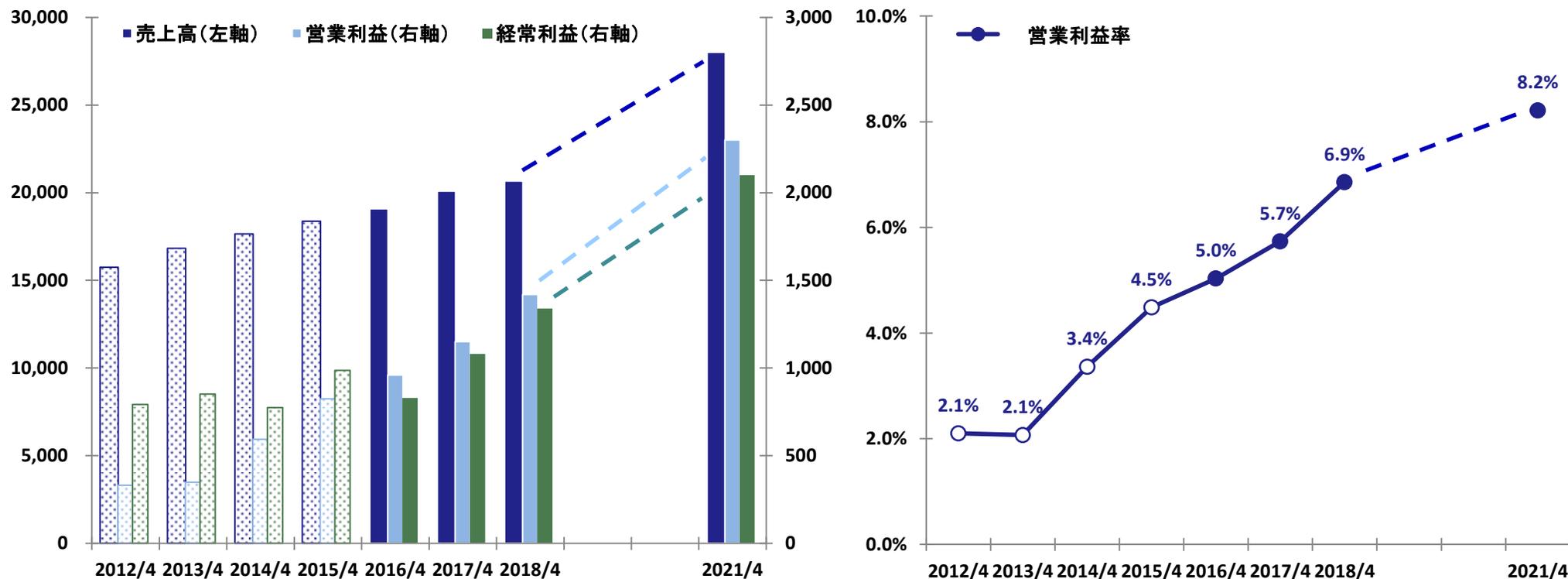
	2012/4期	2013/4期	2014/4期	2015/4期	2016/4期	2017/4期	2018/4期	2021/4期
売上高	15,742	16,820	17,645	18,367	19,090	20,090	20,660	28,000
営業利益	331	348	593	824	960	1,150	1,420	2,300
経常利益	792	851	774	986	830	1,080	1,340	2,100
営業利益率	2.1%	2.1%	3.4%	4.5%	5.0%	5.7%	6.9%	8.2%

実績

実績予想

中期経営計画値

長期目標



※上記の計画値には、両国ビューホテル(仮称)の計画値は含んでおりません。

1	V-STAGE 280
2	外部環境認識と取り組むべき課題
3	当社の状況
4	中期経営計画の概要
5	ホテル事業
6	施設運営事業
7	遊園地事業
8	新規事業開発
9	株主還元
10	補足資料

当社の持つ「強み」を更に強化し、持続的な成長を目指します

設備投資を抑制していた時期において、ハード面(施設)は競争力が低下する中、安定的な業績を持続出来たのは「あたたかい心のこもったおもてなし」、「おいしいお料理」を提供出来ていたこと、それらによってお客様に何度も足を運んで頂くことが出来たことが要因と考えられます。私たちは、これらのソフトが当社の「強み」であると認識し、今後更に多くのお客様に喜んで頂けるよう、「継続的な人材育成」、「食への取組み」を強化し、厳しい競争を勝ち抜く「何度もご利用頂けるホテル作り」を目指します。

継続的な人材育成

人材育成方針

- 基本的スキルにおもてなしの心(ホスピタリティ)が伴って初めて「あたたかい心のこもったおもてなし」が実現されます。このおもてなしが出来るスタッフを多く育成することが、競合他社との優位性を構築に繋がります。今後も各自のおもてなしの心に気づきを与える教育研修を継続していきます。

当社オリジナルの研修プログラム(例)

- 「ビューホテルアカデミー」: グループワークを中心にビューホテルらしいサービスとは何かを考える研修プログラムです(管理部門、調理等含む全職種が対象)。
- 年2回開催する全社料理コンテストでは、調理部門の若手社員の作品を審査。優秀な作品を各ホテルで商品化し、技術と意欲の向上を図っています。

「食」への取組み

沢山のお客様に喜んでいただける営業形態

- フレンチと中華が同時にお楽しみいただけるレストラン「シェフ&シェフ」は当社オリジナルの店舗展開です(浅草、成田、秋田ビューホテルで展開中)。
- 浅草ビューホテル「武蔵」を代表とするブッフェレストランでは、食材だけでなく「窯」(火)にもこだわり、多くのお客様にご支持頂いています(伊良湖、秋田ビューホテルにもブッフェレストランを展開中)。

直営によるホテル内飲食店営業

- 食にこだわり、変化する顧客ニーズに柔軟に対応していくためには、洋食・和食・中華などの多様性と連携が重要です。これらの各部門を直営で営業していく事により、顧客ニーズに的確に対応していきます。



既存施設を更に快適・魅力的な空間に改装

これまで浅草ビューホテルを中心に既存施設での積極的な設備投資を行ってきました。今後、浅草ビューホテルでは、国内外のお客様に向けて江戸情緒を発信する魅力的な空間を創り上げます。また、他のホテルでも館内の改装を継続することにより、競合施設との差別化を図っていきます。

浅草ビューホテルの主要設備投資計画概要

江戸情緒をテーマとしたロビー改装

- 2020年東京オリンピック、パラリンピック開催、訪日外国人の増加、シニア層の増加など「和」へのニーズの高まりから、ホテルの顔であるロビーエリアを江戸情緒をテーマとした改装を行い、日本らしい空間を演出します。

江戸情緒をテーマとした客室改装

- 江戸をテーマとしたコンセプトルームを7室新設し、客室内でも江戸情緒を感じて頂きます。

デリカ事業への挑戦

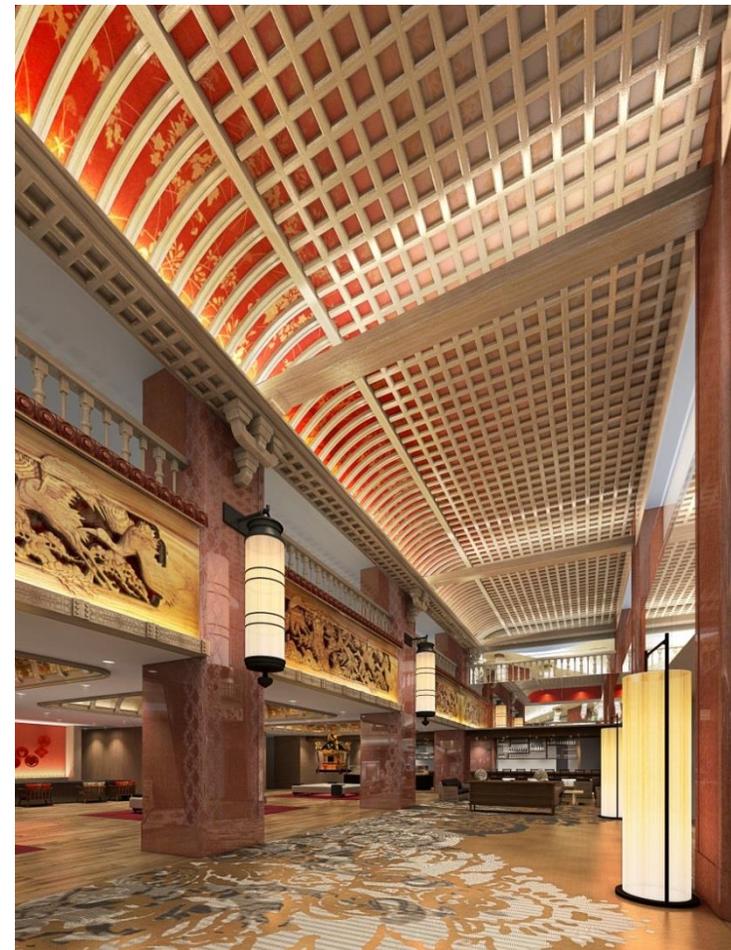
- 中食市場は、今後も益々拡大するものと思われます。それらの需要に対応するため、ホテル1Fの「デリカ」を移設・拡張します。その後の外部への進出も視野に入れ、多様化する中食市場において、顧客満足度の高いお惣菜、パン、スイーツなどを販売していきます。



江戸情緒を感じさせるロビー（イメージ）



江戸情緒をコンセプトとした客室（イメージ）



江戸情緒を感じさせるロビー（イメージ）

浅草ビューホテル以外の設備計画の概要



改装済の成田ビューホテル客室



buffetレストラン(イメージ)



露天風呂(イメージ)

客室改装

増加する訪日外国人、国内旅行者に快適にお過ごし頂けるよう、伊良湖ビューホテル、秋田ビューホテル、成田ビューホテルの客室の改装を行います。

レストラン改装(オープンキッチン化)

多様化するニーズに対応し、さまざまな世代、国籍のお客様にお楽しみ頂けるよう、高崎ビューホテル・レストランNOVA、成田ビューホテル・レストランPatioの両レストランをオープンキッチン形式に改装します。当社に蓄積されたオペレーションノウハウにより、味はもとより、出来立てのお料理を「香り」や「ライブ感」と共にお楽しみ頂ける空間を創出します。

露天風呂

シニア市場の拡大、増加する訪日外国人対策として、那須ホテルビューパレスに露天風呂を新設します。現在の大浴場に加え、隠れ家的な露天風呂を新設し、素晴らしい那須の自然と温泉を存分にお楽しみ頂けるよう改装します。

快適な客室・楽しめる食事・くつろぎの温泉による魅力的なホテルに改装

主要施設設備投資のコンセプト

1 「日本的」「江戸情緒」

狙い： 訪日外国人、2020年対策、
対象ホテル： 浅草

2 「食」

狙い： 多様化するニーズへの対応(ブッフェ)、
拡大する中食市場への挑戦
対象ホテル： 浅草 成田 高崎

3 「快適な客室」

狙い： 顧客満足度向上、競争力強化
対象ホテル： 伊良湖 秋田 成田

4 「露天風呂」

狙い： シニア、訪日外国人対策
対象ホテル： ビューパレス

ビューホテルブランドの確立
競合他社との差別化

主要施設設備投資スケジュール

		2016年 4月期	2017年 4月期	2018年 4月期
浅草	フロント	改装		
	ロビー		改装	
	和客室			改装
	デリカ		改装	
伊良湖	客室	改装	改装	改装
秋田	客室		改装	改装
成田	客室	改装	改装	改装
	レストラン「Patio」	改装		
高崎	レストラン「NOVA」	改装		
ビューパレス	露天風呂新設		改装	

設備投資合計	14億円	13億円	10億円
--------	------	------	------

総額37億円の設備投資を実行
※ホテル事業のみ

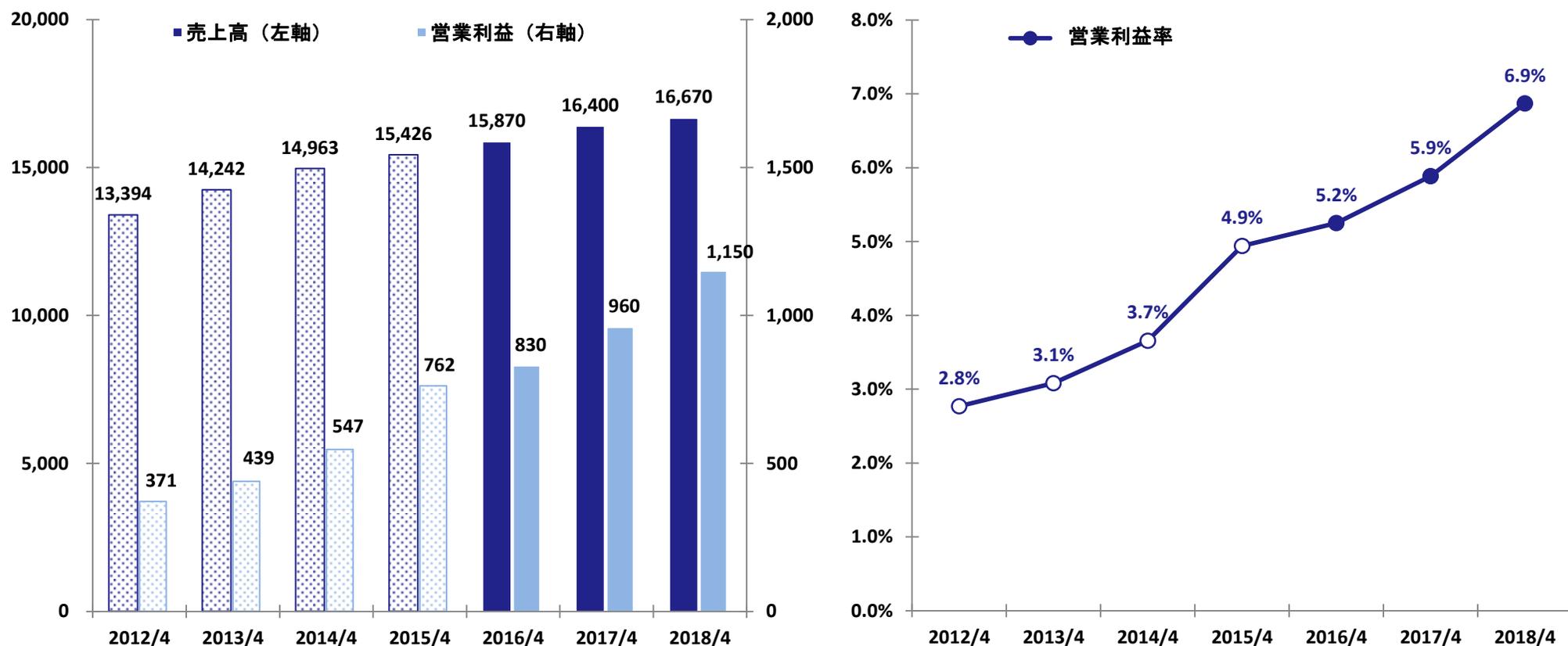
単位:百万円

	2012/4期	2013/4期	2014/4期	2015/4期	2016/4期	2017/4期	2018/4期
売上高	13,394	14,242	14,963	15,426	15,870	16,400	16,670
営業利益	371	439	547	762	830	960	1,150
営業利益率	2.8%	3.1%	3.7%	4.9%	5.2%	5.9%	6.9%

実績

実績予想

中期経営計画値



1	V-STAGE 280
2	外部環境認識と取り組むべき課題
3	当社の状況
4	中期経営計画の概要
5	ホテル事業
6	施設運営事業
7	遊園地事業
8	新規事業開発
9	株主還元
10	補足資料

安定的な既存事業に加え、新規物件獲得による成長を目指す

新規案件獲得による成長

- 当社グループのノウハウを活かし、業績向上戦略の提案によりホテル、旅館の運営受託を拡大する。
- 小規模施設の安定的な運営実績を基に保養所の運営受託契約を獲得する。

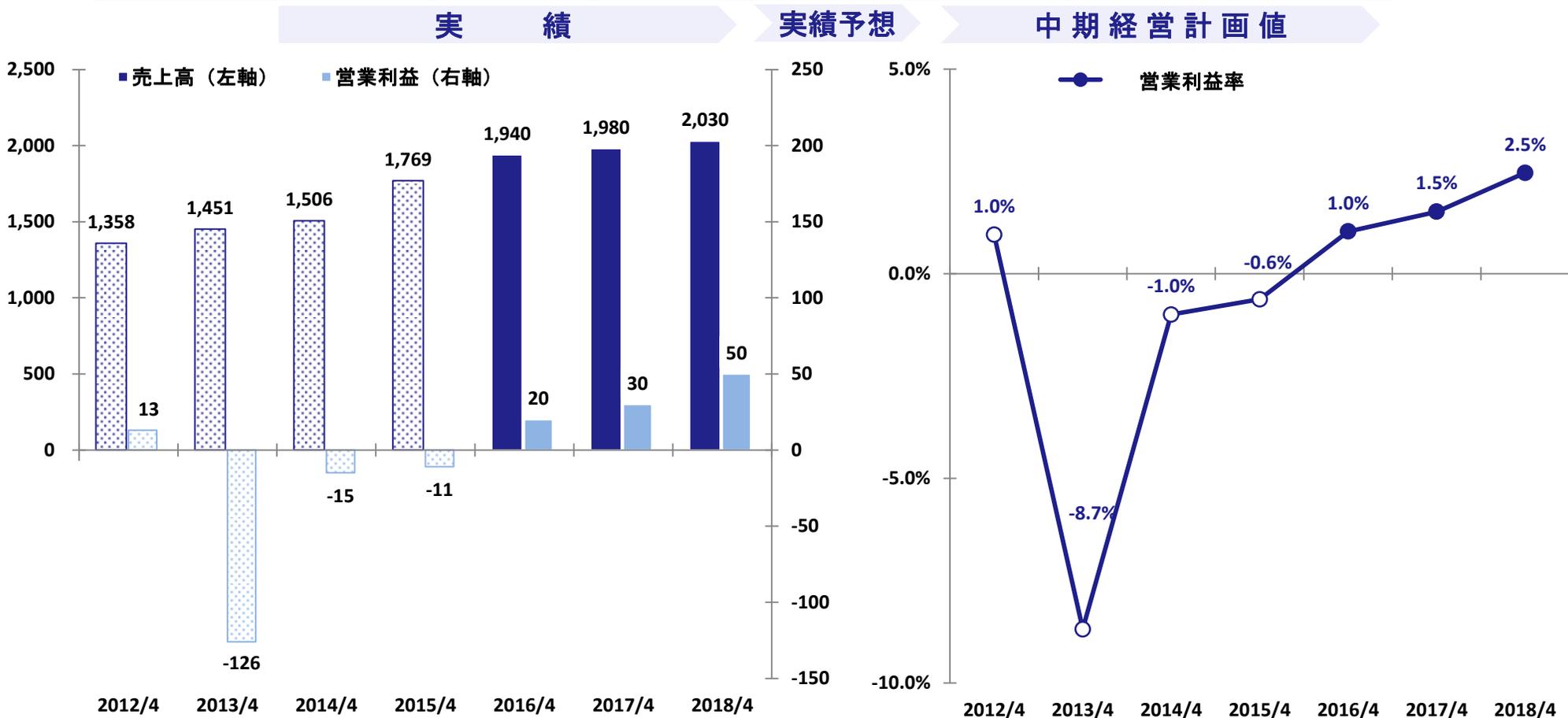
既存事業所の収益力アップの施策

- ネット等での各種プランの充実による販売強化
(特にシニア層、女性客向けプランの充実)
- 宿泊団体向けセールスの強化、定員稼働率のアップ

6. 施設運営事業 ②業績目標

単位：百万円

	2012/4期	2013/4期	2014/4期	2015/4期	2016/4期	2017/4期	2018/4期
売上高	1,358	1,451	1,506	1,769	1,940	1,980	2,030
営業利益	13	-126	-15	-11	20	30	50
営業利益率	1.0%	-8.7%	-1.0%	-0.6%	1.0%	1.5%	2.5%



1	V-STAGE 280
2	外部環境認識と取り組むべき課題
3	当社の状況
4	中期経営計画の概要
5	ホテル事業
6	施設運営事業
7	遊園地事業
8	新規事業開発
9	株主還元
10	補足資料

那須りんどう湖 LAKE VIEW を更に魅力的な総合レジャー施設に

日本ビューホテル創業の地“那須”から新規事業展開を開始

那須りんどう湖 LAKE VIEWに「buffetレストラン」「温泉施設」「マルシェ」を併設します。同施設は来園者以外もご利用可能な施設とし、V字回復する那須観光客全般の取込みを実現します。遊園地事業では、天候に左右されない営業基盤作り、オフシーズン対策が課題となっており、新規開業施設とのシナジーによる安定的な収益基盤を構築します。これらの新施設は、新規事業として全国の観光地・都市部 への進出を視野に入れています。



buffetレストラン

多様化する消費ニーズに対応するための営業形態であるだけでなく、ビューホテルでのオペレーションノウハウが蓄積されているbuffetレストランを那須を訪れる全ての観光客に向けて営業します。

温泉施設

温泉地としての那須エリアのポテンシャルに加え、伊良湖、成田ビューホテルで蓄積した当社のオペレーションノウハウによる、りんどう湖の景色(View)を最大限に活かす温泉施設を開業します。

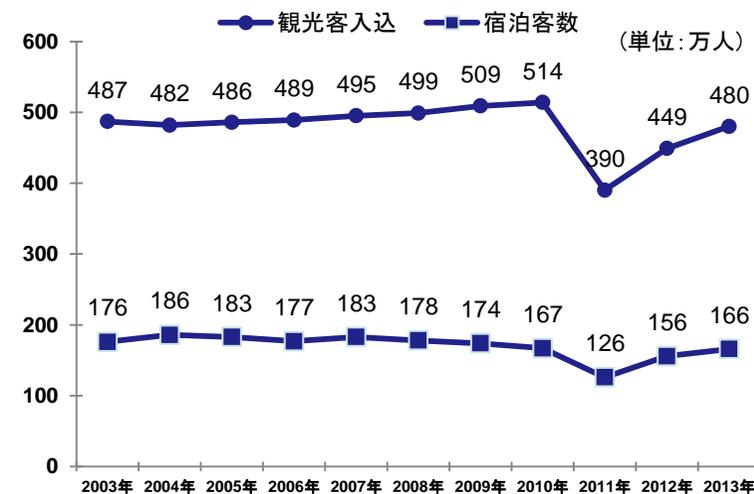


マルシェ

健康への意識の高まりから、「食へのこだわり」は、今後更に重要度を増していくものと思われます。それらのニーズに対応するため、りんどう湖の乳製品だけでなく、新鮮野菜、自家製ソーセージ等の販売を行う「マルシェ」を展開します。



那須町の観光客入込数及び宿泊客数の推移



出所：那須町公式ホームページ 観光商工課

	2016/4期	2017/4期	2018/4期
設備投資合計	1.3億円	6.7億円	9億円

総額17億円の設備投資を実行

※遊園地事業のみ

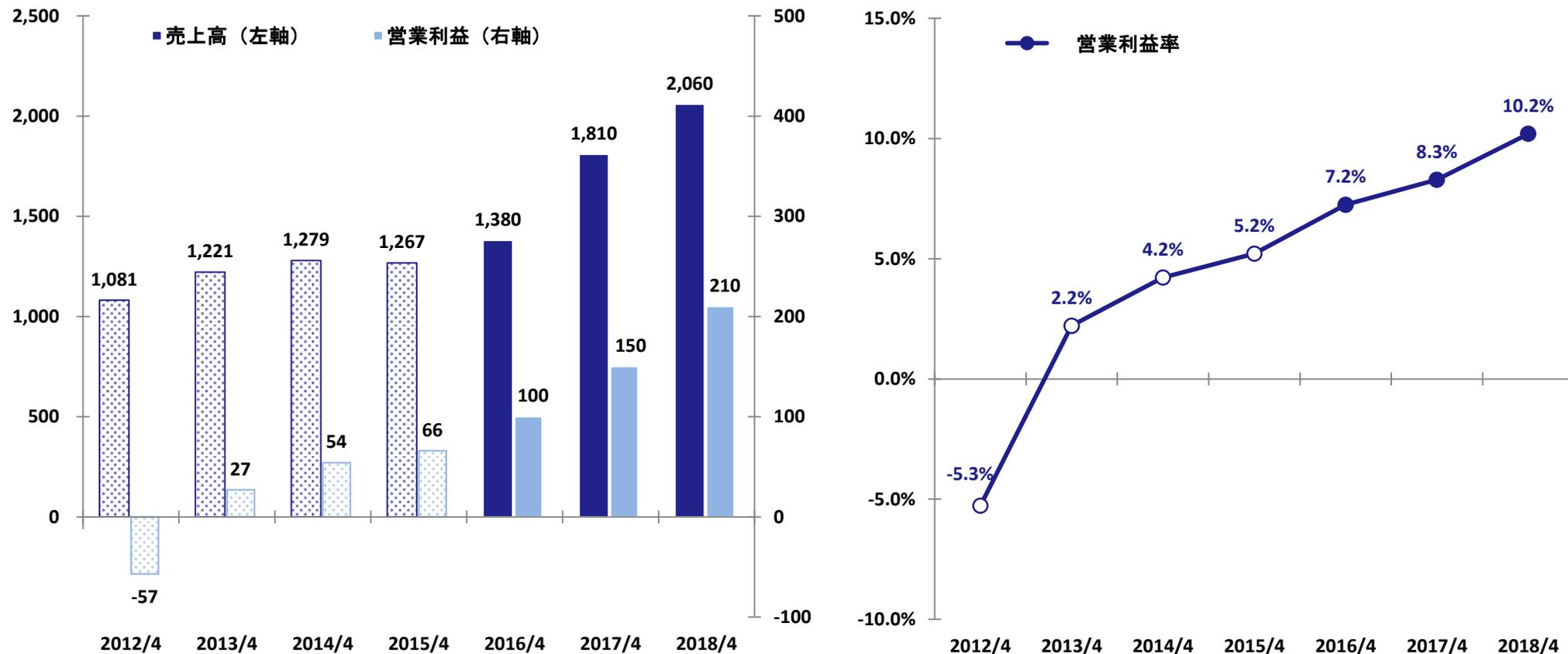
單位：百万円

	2012/4期	2013/4期	2014/4期	2015/4期	2016/4期	2017/4期	2018/4期
売上高	1,081	1,221	1,279	1,267	1,380	1,810	2,060
営業利益	-57	27	54	66	100	150	210
営業利益率	-5.3%	2.2%	4.2%	5.2%	7.2%	8.3%	10.2%

実績

実績予想

中期経営計画値



1	V-STAGE 280
2	外部環境認識と取り組むべき課題
3	当社の状況
4	中期経営計画の概要
5	ホテル事業
6	施設運営事業
7	遊園地事業
8	新規事業開発
9	株主還元
10	補足資料

新規ホテル・旅館の展開に加え、関連事業・周辺事業進出による事業領域の拡大を目指す

国内展開

方向性

当社の強みが活かせる宿泊、食事、寛ぎを備えた営業形態(シティホテル、リゾート、旅館)への進出。

開発エリア

【シティホテル】
東京都内、県庁所在地、政令指定都市。
【リゾート・旅館】
人気観光地・訪日外国人需要が見込めるエリアへの進出。

想定事業規模

2021年4月期までの新規ホテル・旅館の合計売上高
60億円

海外展開

方向性

海外におけるビューホテルブランドの認知度向上及び地域社会への貢献。投資リスクを抑制した開発。

開発エリア

2020年にはアジアのGDPは2,000兆円、世界No.1市場となることからアジアでの出店を計画。東南アジア、南アジアをメインターゲット。

想定事業規模

2021年4月期までの間、運営受託、運営指導による進出

関連事業・周辺事業

方向性

当社の強みが活かせる「レストラン」「温泉施設」「デリカ」の出店による事業領域の拡大。

開発エリア

東京都内、県庁所在地、政令指定都市を中心としたエリアへの出店。温泉施設については観光地としてのポテンシャルを加味し検討。

想定事業規模

2021年4月期までの3業態の新規出店による合計売上高
20億円

新規事業開発による想定事業規模 合計売上高80億円

1	V-STAGE 280
2	外部環境認識と取り組むべき課題
3	当社の状況
4	中期経営計画の概要
5	ホテル事業
6	施設運営事業
7	遊園地事業
8	新規事業開発
9	株主還元
10	補足資料

毎期の安定配当と持続的な企業価値の拡大によるトータルな株主還元

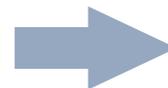
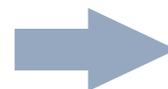
配当と成長戦略のバランス

株主還元

安定的な配当性向

成長投資

将来に亘る利益の拡大



トータルな株主還元の実現

直接的な利益還元

中長期的な株価上昇

- 配当性向は、成長戦略とのバランスを取りながら安定的に30%以上としていく方針
- 2015年4月期の1株当たりの配当は、期末配当16円を下限として予想

2015年4月期末の基準日より株主優待制度を導入

- 株主還元を目的として株主優待制度を導入
- ご利用に際しての制約を少なくし利便性を高めるため金額割引券を採用

対象となる株主様

毎年4月30日と10月31日現在の株主名簿に記載された当社1単元(100株)以上を保有されている株主様

優待対象施設と優待内容

保有株式数	優待内容
100株以上300株未満	500円割引券 4枚(2,000円相当)
300株以上500株未満	500円割引券 6枚(3,000円相当)
500株以上	500円割引券 10枚(5,000円相当)

優待対象施設	優待対象内容
浅草ビューホテル、成田ビューホテル、 秋田ビューホテル、高崎ビューホテル、 伊良湖ビューホテル、ホテルビューパレス、 ぎょうけい館、ホテルプラザ菜の花、 グリーンパール那須、おきたま路	宿泊、レストラン、 宴会、婚礼
那須りんどう湖 LAKE VIEW	入園料、レストラン

有効期間及び贈呈時期

- 割引券の有効期間は6ヶ月間
- 毎年7月下旬と1月下旬の発送を予定

株主優待制度の開始時期

- 2015年4月30日現在の株主名簿に記載された当社株式1単元(100株)以上を保有される株主様を対象として開始

今後も配当性向の向上と株主優待制度の拡充の検討を継続

1	V-STAGE 280
2	外部環境認識と取り組むべき課題
3	当社の状況
4	中期経営計画の概要
5	ホテル事業
6	施設運営事業
7	遊園地事業
8	新規事業開発
9	株主還元
10	補足資料

会社名	日本ビューホテル株式会社	
所在地	東京都台東区西浅草3-17-1	
設立	1953年5月4日	
代表者	代表取締役社長 石井 一男	
資本金	2,743百万円 (2015年1月31日現在)	
決算期	4月30日	
市場	東京証券取引所市場第二部	
従業員数	連結 766名、単体 607名 (2014年10月31日現在、嘱託・パート・アルバイトを除く)	
大株主	エムシーピースリー投資事業有限責任組合 52.2% 株式会社立飛ホールディングス 5.8% 名古屋鉄道株式会社 5.0% 日本ビューホテルグループ社員持株会 3.4% (2014年10月31日現在)	

	2013年4月期	2014年4月期
売上高	16,820百万円	17,645百万円
営業利益	348百万円	593百万円
総資産	22,268百万円	21,953百万円
純資産	12,645百万円	13,148百万円



創業 那須の開発

1953年
那須観光株式会社設立

1960年
那須ビューホテル開業

1964年
那須興業(株)設立

1965年
りんどう湖ファミリー 牧場
営業開始



事業の拡大

1966年
日本ビューホテル(株)に商号
変更

1968年
伊良湖ビューホテル開業

1974年
成田ビューホテル開業

1977年
ホテルビューパレス開業
日本ビューホテル事業(株)
設立

1983年
高崎ビューホテル開業

1984年
秋田ビューホテル開業

1985年
浅草ビューホテル開業

経営の再建

2001年
民事再生手続を申立

2005年
民事再生手続終結決定

2007年
エムシーピースリー投資事
業有限責任組合による出資

2012年3月
再生債務を期限前完済



新たな成長へ

2012年 5月
浅草ビューホテルレストラン
「武蔵」オープン
…既存施設における戦略
的設備投資を開始

2014年 7月
東京証券取引所市場第二
部に上場

清流の宿 おくたま路開業
…新規事業案件による
事業基盤の拡大へ



浅草ビューホテルを旗艦ホテルとするホテル事業を中核に、宿泊・観光事業グループを形成

ホテル事業

直営によるVIEW HOTELブランドを展開するグループの中核事業

- ホテル事業の特徴は、「ホスピタリティ」、「地域密着型」、「ビュー（景色）」。
- 当社グループが有する経験およびノウハウを最大限に発揮すべく「VIEW HOTEL」ブランドによる直営（一部のホテルについては、土地・建物の賃借による直営）でのホテル経営を実施。
- 下町浅草エリアにある唯一の高層ホテル、浅草ビューホテルが旗艦ホテルとしてグループ業績を牽引。観光立国政策を追い風に、スカイツリーや日本文化に溢れる観光資源が立地の優位性を拡大。
- 浅草ビューホテルの他、シティホテルとリゾートホテルを有し、客室の他、料飲施設、結婚式場、宴会場、会議室等を設置し、宿泊、料飲、宴会・婚礼の各部門の営業を実施。ホテルによってはスパや温泉などを設け、顧客が快適に過ごせるよう施設の充実を図っている。



施設運営事業

低い事業リスクで宿泊施設をチェーン展開

- 「VIEW HOTEL」ブランド以外のホテルや旅館の経営、ホテルや旅館、保養所の運營業務受託、運営指導を行っている。「VIEWHOTEL」ブランドを用いたFC契約によるチェーン展開も実施。
- 賃借による運営では、賃借した土地・建物において当社グループによる直営方式でのホテルや旅館の経営を実施。運営委託者の要望に応じて、委託料を受領し運營業務を受託する形態での運営受託やホテル・旅館経営のノウハウを提供する運営指導も実施。



遊園地事業

認知度の高い那須りんどう湖 LAKE VIEW

- 栃木県那須高原に位置するレジャー施設である那須りんどう湖 LAKE VIEW（旧りんどう湖ファミリー牧場）を運営。
- 自然に恵まれた広大な園内に那須高原唯一の湖を有し、各種の動物、乗物、アトラクション、レストラン等を設置するとともに多彩なイベントの開催により、那須高原を代表するレジャー施設として認知。



関東圏を中心に18ホテル(提携含む)を運営



ホテル事業



1 浅草ビューホテル



2 成田ビューホテル



3 秋田ビューホテル



4 高崎ビューホテル



5 伊良湖ビューホテル



7 那須高原ホテルビューパレス



11 郡山ビューホテルアネックス



12 郡山ビューホテルアネックス

施設運営事業

※下記の他、旅館1施設、保養所1施設の運営業務受託



6 おくたま路



8 ぎょうけい館



9 ホテルプラザ菜の花



10 ホテルグリーンパーク那須



13 福島ビューホテル



14 平ビューホテル



15 岡山ビューホテル



16 ホテルグランビュー沖縄



17 ホテルグランビューガーデン沖縄



18 ホテルグランビュー石垣

連結損益計算書

単位: 百万円	2012年 4月期	2013年 4月期	2014年 4月期	2015年 4月期 第3四半期 累計
売上高	15,742	16,820	17,645	13,994
売上原価	4,233	4,351	4,566	3,626
売上総利益	11,509	12,468	13,078	10,368
販売費・一般管理費	11,177	12,119	12,484	9,488
営業利益	331	348	593	880
営業外収益	611	667	327	293
営業外費用	151	164	146	108
経常利益	792	851	774	1,064
特別利益	71	11	2	0
特別損失	86	304	167	127
税金等調整前当期純利益	777	558	609	937
法人税、住民税及び事業税	711	152	237	233
法人税等調整額	△631	1	△46	49
少数株主損益調整前	697	404	418	655
少数株主利益	2	—	—	—
当期純利益	694	404	418	655

連結貸借対照表

単位: 百万円	2012年 4月期	2013年 4月期	2014年 4月期	2015年 4月期 第3四半期
現金及び預金	4,267	3,344	2,809	3,750
売掛金	727	722	666	762
その他流動資産	715	760	640	615
流動資産合計	5,711	4,827	4,116	5,127
有形固定資産	13,987	15,596	16,117	16,553
無形固定資産	1,439	1,436	1,425	1,417
投資その他の資産	372	408	293	294
固定資産	15,799	17,440	17,836	18,265
資産合計	21,510	22,268	21,953	23,393
うち有利子負債(割賦含む)	5,569	6,519	5,939	5,798
流動負債	4,008	3,676	3,649	4,244
固定負債	5,261	5,946	5,154	5,020
負債	9,270	9,622	8,804	9,265
資本金	2,579	2,579	2,579	2,743
資本剰余金	1,500	1,499	1,499	1,663
利益剰余金	8,161	8,565	8,984	9,639
その他	0	1	85	81
純資産	12,240	12,645	13,148	14,128
負債純資産合計	21,510	22,268	21,953	23,393

この資料は投資家の参考に資するため、日本ビューホテル株式会社(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

当資料に記載された内容は、提出日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

この資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、この資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

 VIEW HOTELS